

乳製品需給等情報交換会議（主な意見）

日時：平成 28 年 8 月 25 日（木）13:30～15:00

場所：（独）農畜産業振興機構 北館 6 階会議室

意見：

（全体）

- ・生産、流通、小売、消費者が一堂に会し、直接意見交換を行える場は貴重。

（全国消費者団体連絡会）

- ・多くの消費者はなぜバターが足りないのか疑問に思っている。バターの生産・供給の仕組みに関する情報が国民に伝わっていない。
- ・十分な量が流通することも大事だが、価格も重要。最近では 200g のものは減ってきており、150g で 300 円を超える商品が多く、200g 換算にすると価格は高いと認識。
- ・今のやり方は、酪農家の現実的な支援になっているのか疑問。改めて知恵を絞って、生産現場に一番いいものにしていくことが必要。

（酪農家（北海道））

- ・酪農家も消費者に必要なものを届けたいと思っているが、子牛が生まれてから 2 年後にようやく生乳を搾れるようになるという酪農の特性上、需給調整は難しいところがある。
- ・北海道は生乳生産量が伸びているが、都府県は減少傾向にある。北海道には、都府県の生産で飲用をまかなえない時に、生乳を都府県へ送って需給を調整するという重要な役割があり、バターだけでなくほかの乳製品も不足が出ないよう、全体のバランスを見ながら供給をしていくことが重要。

（卸売業者）

- ・今のところ、家庭用バターの需給は落ち着いている。
- ・価格が高いという話があるが、ここ 3 年ほど特売が実施できていない。全体的な物量が増えれば、販促なども実施できると思う。
- ・業務用については、ややだぶつき感を感じており、ユーザーのニーズに合った出荷ができていない状況。
- ・不用意な報道があると市場が混乱するので、マスコミへの情報提供が重要。

(新日本スーパーマーケット協会)

・今のところ需給は落ち着いているが、需要期に発注数量が入ってこないと消費者に迷惑をかけることになる。また、中小の業者の方が家庭用バターをスーパーで購入する事態になる。業務用・家庭用のバランスも見ながら適切な供給をしていただきたい。

(日本洋菓子協会連合会)

・昨年暮れから今年にかけてのバターの需給については特に大きな混乱はなく、そのことは我々が農畜産業振興機構さんの協力を得て実施した会員へのアンケート調査でも、「ほぼ足りていた」との回答が多かったことでもわかる。また今期の生乳の生産量も昨年並みに推移しているということで安心しているところ。だからといって、バター不足を引き起こした根本的な原因は解決できていないと思っており、この点について、今後皆様と考えていきたい。

(全国菓子工業組合連合会)

・現在の状況は、総じていえば落ち着いている。しかし一部には、必要量が分割納入されるという声もあり、完全に元に戻ったとは言えない状況もある。

・不足すると大手のユーザーに優先的にバターが回ることから、中小規模の業者には、業務用バターが回ってこなくなり、スーパーに家庭用を買いにいかざるを得なくなる。

・価格が高かったり、供給が安定しないと代替品を使用することとなるが、これは国産バターの需要を減らすことであり、生産者にとってもプラスにならない。今は飼料穀物の国際相場、原油価格が下がり、円高も進んでいるので、もう少し価格が下がらないかと思っている。

・生産者側から、天候の推移等安定供給の難しさが訴えられているが、バターは国家貿易品目であり、国として供給に責任を持っていただきたい。その観点からは、農畜産振興機構が一定の在庫を持ち需給の変化に対応されるということは、実需者としては安心感につながり非常にありがたい。

(全日本洋菓子工業会)

・現在の状況は落ち着いているが、バターの需給は年末に向けてタイトになってくる。状況が悪化すると、個人経営の小規模な洋菓子店にはバターが入荷されず、ダメージを受ける。生乳生産と乳製品流通の双方に問題があると考えている。

・生乳生産については、一刻も早く魅力ある酪農を実現し、生乳生産を増加させ、バターの安定供給が図られるような支援をお願いしたい。ただし、生産が

増加するには時間がかかることは認識している。

- ・流通の問題は、追加輸入が実施されているはずなのに、ユーザーまで届かないということがあったこと。資料上の流通量と、現場で感じる流通量にはかい離があり、一番の問題点と思っている。

(日本パン工業会)

- ・バター全体の供給は問題ないが、国産バターは不足気味で、販売制限を受けている。国産と輸入とでは味や風味が異なり、国産バターしか使えない製品があるため、国産バターを安定して供給してほしい。

(Jミルク)

- ・年に数回、バターの生産と消費の見通しを分析しているが、現在、バターが不足している状況にあるとは考えていない。

(日本乳業協会)

- ・業務用バターの供給をしっかりとすれば、事業者が家庭用を買わなくても済む。そのため、乳業メーカーは、需要期により多くの業務用バターを供給できるよう、冷凍することで保存期間を長くし、在庫量を増やしている。また国家貿易により相当量のバターが輸入されていることから、今年は大きな大混乱は避けられると認識している。

- ・今年の夏は西日本がかなり暑くなっており、生乳生産への影響が心配。
- ・マスコミの報道により消費者が買いだめをしてしまうことが懸念。

(中央酪農会議)

- ・平成 22 年度に生乳の減産を実施し、さらに口蹄疫や東日本大震災という予期せぬ災害もあったことから、生乳生産量は落ち込み、回復に時間を要している。
- ・28 年 4～7 月の生乳生産量は好調に推移しているが、乳牛の頭数自体は増えておらず、また西日本の猛暑、北海道の台風といった影響も心配であり、引き続き注視したい。

(以上)